

令和 8 年度第 1 回 青森市病院運営審議会 会議概要

○日時 令和 8 年 9 月 29 日（火） 18 時 30 分～19 時 40 分

○場所 市民病院 3 階 大会議室

○出席委員（8 名）

北畠 滋郎 委員、村川 みどり 委員、木村 淳司 委員、村田 浩伸 委員、
青木 一朗 委員、村上 眞須美 委員、菅 美希 委員、福井 美咲 委員

○欠席委員（1 名）

鶴岡 由美子 委員

○病院職員

（市民病院）豊木 嘉一 院長、相馬 正始 副院長、森 康宏 副院長、
川島 啓明 副院長、新山 聖子 医療技術局長、山崎 智子 看護局長、
今 国弘 事務局長、小鹿 正憲 事務局次長、溝口 篤史 総務課長、
須藤 静路 医事課長、淋代 優樹 新病院整備推進課長
（浪岡病院）高橋 敏之 院長、和田 和子 総看護師長、木村 文子 事務長

○組織会

・組織会を開催し、委員の互選により会長・副会長を次のとおり選任した。

会長 … 北畠 滋郎 委員

副会長 … 村田 浩伸 委員

【報告案件(1)、(2)】

令和 7 年度青森市病院事業会計決算及び青森市経営強化プランの点検・評価（令和 7 年度実績）の概要について、市民病院事務局総務課長からは青森市民病院分及び病院事業会計全体分を、浪岡病院事務長からは浪岡病院分を資料に基づき報告した。

以下、主な質疑応答

（委員）

薬剤師の病棟配置について、新規採用ができなかったと思うが、診療報酬の加算を取得することが難しい状況ということか。

（事務局）

令和 7 年度の薬剤師の新規採用については、応募者がおらず確保に至らなかったため、加算の取得は達成できなかった。

ただ、令和 8 年度に入り、多職種の連携により、現在の人員体制をやりくりして、病棟へ薬剤師を配置する体制を整えている。

(委員)

病床利用率について、病床数を削減をしたものの、依然として低い状況にあるが、今後についてどのように考えているか。

(事務局)

病床利用率について、ここ数年で低下している状況である。

できる限りの中ではあるが、必要がないと判断される病床については、段階的に可能な限り縮小していくことは考えられる。

(委員)

病床利用率を上げるということは難しく、人口自体が減少する中、ベッドを集約し、そこにしっかりと人を投入することでケアの質の向上が図られると考えられるため、効率のいい運用を考えていただければと思う。

また、浪岡病院について、現状、かなり病床利用率が低く、今後について考えたほうがいいのではと思うがどうか。

(事務局)

浪岡病院については、外部の有識者に、地域の皆様にとって本当に必要とされる病院は何になるのか、分析を行っていただいた。

現在は、分析内容から次の判断がどのようになるのか、検討を進めている段階である。

(委員)

資料2の3ページ、住民理解の促進に関する具体的な取組として、各診療科を紹介するチラシを作成してホームページで公開しているとあるが、掲載されているページが医療機関向け情報であり、内容としては住民向けのよう内容であると感じているが、このチラシ自体が住民向けの内容として載せているのか、医療機関や専門職向けの内容として載せているのか教えていただきたい。

(事務局)

当該チラシは医療機関や医療従事者向けに作成したものであり、ホームページ上では医療機関向け情報として掲載している。

チラシの内容については、市民向けとしても有意義な内容となっていることから、住民理解の促進に資するよう、ページ構成を工夫できないか検討してまいりたい。

(委員)

資料2の5ページ、経営の効率化に関する具体的な取組として、連帯保証人の設定とあるが、近年、家族形態の変化が見られ、身寄りがない、もしくは頼れる家族がないという方がどんどん増えているというふうに体感しているが、その場合の対応をどのようにしているのか。

(事務局)

連帯保証人の設定については、原則として連帯保証人を設定するよう、案内をしている。

ただ、連帯保証人をつけたくてもつけられないなど、やむを得ない事情がある方もいることから、困難な場合であっても、適切な医療が提供できるように対応している。

(委員)

7 ページ、浪岡病院の果たすべき役割について、令和 7 年度の救急搬送件数が前年比から約 40 件減少している。

その理由として、単純に救急搬送件数が減少しているのか、もしくは他に要因があるのか。

(事務局)

救急搬送の受入要請は、救急隊がその患者の状況を把握して、どの病院に搬送するか判断するということになる。

浪岡病院の搬送患者が減少しているが、受入の減少対策として、地域全体における救急搬送状況等の把握に加え、下り搬送の受入の参加にも努めている。

こうした連携にも取り組んでいるところではあるが、結果として搬送件数が減少していることから、今後の浪岡病院が担う機能も含めて、経営改善に向けた各種取組の中で、救急の受入についても検討していく必要があると考えている。

【報告案件(3)】

共同経営・統合新病院整備の進捗状況について、市民病院事務局新病院整備推進課長から資料に基づき報告した。

以下、主な質疑応答

(委員)

統合新病院の開院までの間、令和 10 年度に企業団ができ、県病と経営は統合されるが、新病院の開院前に、人材の交流や機能の統合、診療科ごとにいろんな事情があると思うが、どのような予定になっているのか。

(事務局)

県病と市民病院の統合に向けては、現在、両病院とも非常に厳しい経営状況であるが、地域医療連携推進法人を立ち上げて、経営の連携を先立って検討をすることとした。

その中でこの両病院の統合効果の早期発現を進めながら、内容としては経営や組織、ノウハウ、基準の統一をしながら、企業団への移行を行い、円滑に融合させていく必要があり、現在は、両病院の関係部門での個別協議を進めている。

【報告案件(4)】

浪岡病院の経営改善について、浪岡病院事務長から資料に基づき報告した。

以下、主な質疑応答

(委員)

介護事業者等の聴き取りを行った後、いつごろを目途に判断を行う予定であるか。

(事務局)

介護事業者等の聴き取りについては、10 月中には完了したいと考えている。

その後、来年度の事業計画や予算の成立に向けて、説明ができるよう、具体的な時期は今後であるが早期の判断をしてまいりたい。